

ザルツブルク マリオネット人形劇 「サウンド・オブ・ミュージック」

松本市音楽文化ホール (ザ・ハーモニーホール) メインホール

2025

9/29 (Mon)

18:30開演 (18:00 開場)

9/30 (Tue)

10:00開演 (9:30開場)

14:00開演 (13:30開場)



100年を超える歴史を持つマリオネット人形劇が
信州松本に初上陸!

ザルツブルク・マリオネット劇場が贈る、心震える名曲の数々

「ドレミの歌」 「エーデルワイス」 「私のお気に入り」 ……

モーツァルト生誕の地として知られるオーストリア・ザルツブルクの
伝統を継ぐ、精巧な人形による優美な演技と音楽が織りなす舞台

「サウンド・オブ・ミュージック」をお楽しみください。

THE SOUND
OF MUSIC



発売日：8月8日(金) 10:00 ~

【全席指定】

■大人(高校生以上)・・・前売：¥4,000【当日：¥4,500】

■中学生・・・前売：¥2,000【当日：¥2,500】

■小学生以下・・・無料/要チケット

※大人(高校生以上)の同伴をお願いします

※託児サービス有：2,000円・要事前申込【申込締切：9月15日(月・祝)】

※公演時間はおよそ2時間を予定しています。(全編英語上演)

※駐車場は限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

※車椅子席でご鑑賞をご希望の方はホールまでお問い合わせください。

【チケット取り扱い】

◇ 松本市音楽文化ホール

窓口/電話：0263-47-2004 ※休館日を除く

WEB：下記の二次元コードからアクセスしてください
※24時間受付可能



〒390-0851 松本市島内 4351
松本市音楽文化ホール (ザ・ハーモニーホール)



<ザルツブルク・マリオンネット劇場>

1913年に設立され、世界で最も古くから続くマリオンネット劇場の一つです。

細部にまでこだわった上演スタイルが評価され、2016年にUNESCOの無形文化遺産に登録されました。

「魔笛」「ヘンゼルとグレーテル」などの有名なオペラ作品や、「兵士の物語」など幅広いレパートリーを上演しています。

多様な熟練技能の訓練を受けた、音楽性、共感性、技量に優れた11人の操り人形師たちが、舞台上のあらゆるキャラクターに命を吹き込みます。12本の糸で巧みに操られる人形たちが、観客を不思議な幻想の世界へ誘います。

この秋、9月25日に大阪で開催されているEXPO2025にも出演します。



<サウンド・オブ・ミュージック>

1959年、ブロードウェイで上演されたミュージカル。

作曲のリチャード・ロジャース、作詞のオスカー・ハマースタイン2世による「エーデルワイス」「すべての山に登れ」「ドレミの歌」「私のお気に入り」、表題曲「サウンド・オブ・ミュージック」など、現在でもスタンダード・ナンバーとして歌い継がれている楽曲が多数ある。原作はオーストリア出身のマリア・フォン・トラップによる自叙伝から。

1965年に映画化。同年6月に日本でも公開し、ヒットした。今年は公開から60周年となる。

(あらすじ)

舞台は1930年代のオーストリア・ザルツブルク。修道院で修行中の若い女性マリアは、自由奔放な性格が修道院になじまず、子どもたちの家庭教師としてトラップ家に派遣されます。トラップ大佐は厳格な元軍人で、7人の子どもたちを軍隊のようにしつけていました。

最初は子どもたちにいたずらされるマリアでしたが、持ち前の明るさと音楽の力で徐々に信頼を得ていきます。

やがて家族の中に笑顔と音楽が戻り、トラップ大佐もマリアに惹かれていきます。当初彼は裕福な女性エルザと婚約していましたが、真実の愛に気づき、マリアと結婚することを選びました。

しかしその幸せな時間も束の間、政治情勢が急激に悪化。ナチス・ドイツがオーストリアを併合（アンシュルス）し、国中が変わっていきます。愛国者であるトラップ大佐はナチスへの忠誠を拒み、ドイツ海軍からの任官命令にも従わず、家族の自由と信念を守る道を選びます。

そのため家族は監視下に置かれ、国外逃亡は困難な状況に。そこで、ザルツブルクで行われる音楽祭に出演し、その舞台を利用して町を離れる計画を立てます。音楽祭の舞台では家族全員が観客を魅了し、コンクールに参加して優勝。だがその最中にナチスが彼らの逃亡に気づき、警官隊がトラップ家を探し始めます。家族は修道院に身を隠し、修道女たちの助けでナチスの車を故障させ、追跡を逃れます。

そしてラストシーン、家族は徒歩でアルプスを越え、自由を求めてスイスへと向かう姿が描かれます。壮大な自然と音楽に包まれた、希望に満ちたフィナーレを迎えます。

主催：ザルツブルク人形劇松本公演実行委員会

共催：松本市（一財）松本市芸術文化振興財団

後援：オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム東京

松本商工会議所 市民タイムス 信濃毎日新聞社 テレビ信州 松本市教育委員会

協力：（一社）まつもとユニバーサルデザイン研究会